

# 視察報告書

静岡県 御殿場市・袋井市

平成31年2月4日（月）～5日（火）



御殿場市役所 議場

松阪市議会  
市民クラブ

平成31年3月20日

松阪市議会議長 中島 清晴 様

松阪市議会  
市民クラブ 楠谷さゆり

平成31年2月4日(月)から2月5日(火)の間、行政視察を実施しましたので下記のとおり報告いたします。

## 記

### 1. 参加者

楠谷さゆり 中島清晴 橘大介

### 2. 視察先及び視察事項

#### (1) 静岡県市御殿場市

① スポーツツーリズムの取り組みについて

#### (2) 静岡県袋井市

① 公民館活動としての日本語サロン（多文化共生をめざした国際交流事業）

### 3. 視察内容

別紙のとおり

## I. 静岡県御殿場市 スポーツツーリズムの取り組みについて

日時：	2月4日（月）14:00~16:00	
場所：	御殿場市役所	
対応：	御殿場市議会経済環境委員会委員長	菅沼芳徳様
	御殿場市役所産業スポーツ部課長	井上史代様
	御殿場市役所産業スポーツ部主任	芹沢龍宏様

### 御殿場市の概要

面積 19,490 平方キロメートル（松阪市 624 平方キロメートル）

人口 8万8078人（松阪市 16万3863人）

御殿場市は、霊峰富士の東麓に位置する緑豊かな高原都市である。人口は約9万人余を有し、静岡県では中規模な都市として発展してきた。

また東京から約100キロの距離にあり、東京・横浜などの経済圏、通勤圏内にもなっている。また、市内には東富士演習場をはじめとする自衛隊関連施設が多く存在し、市域の約3分の1を占めている。

市の観光資源は言うまでもなく、日本一の高さで景観を誇る富士山である。この恵まれた環境により、四季折々の美しい景観、雄大な自然に囲まれたスポーツ、自然散策、歴史探訪など、ひと味ちがった楽しみ方を満喫できる町となっている。

### 2. 御殿場市スポーツツーリズムの目的

御殿場市では、恵まれた環境を生かし観光客の滞留促進を目指す「御殿場市観光ハブ都市づくり推進構想（H23年策定）」の推進プロジェクトの一環でスポーツツーリズムに組み込み、御殿場市観光戦略プラン（H28～32年）の中に「御殿場らしい観光スタイルの確立」として「スポーツによる観光まちづくりの推進」と位置付けている。

御殿場市は、多くのゴルフ場、馬術のナショナルトレーニングセンター等、スポーツのハード資源があり、また、夏の涼しい気候や富士山といった自然資源にも恵まれる。東京オリンピック等の国際的スポーツイベントを目前に控え、これらの大会の関連キャンプ誘致や関係者、観戦者の誘客を行うとともに、今ある資源を生かしたゴルフ、アウトドアスポーツ他の体験型観光等、スポーツを核とした地域振興、観光需要の掘り起こしを目指している。

### 3. スポーツツーリズム推進体制

#### (1) 市の体制

平成 23 年～25 年に、スポーツツーリズム育成支援事業として当時の文化スポーツ課（スポーツ振興担当）で取り組みをスタートし、従来からスポーツ合宿誘致のみならず、市固有の自然環境やスポーツ環境を活かした取り組みを進めてきた。

その後、スポーツツーリズム推進事業として商工観光課（観光振興担当）が事業を引き継ぎ、平成 29 年度には、商工、観光、農林分野を含めた「市民スポーツ交流課」を新設。

「スポーツ交流課」には、市民スポーツ振興を担当する「スポーツツーリズムスタッフ」、東京 2020 オリンピックの自転車競技ロードレースが市域をコースをすることが決まったことを受けて平成 30 年度設置した「2020 オリンピック・パラリンピック推進室」があり、職員 12 名が在籍する。

### 4. 重視しているスポーツ及びスポーツ施設

御殿場市では特にゴルフ、馬術、自転車、空手、アウトドアスポーツ、ラグビーに力を入れ特に、施設の充実を計っているその中で御殿場市馬術・スポーツセンターはナショナルトレーニングセンター(以下 NTC)競技別強化拠点(馬術)に指定されており、NTC 強化合宿の利用には様々な特典をつけて利用促進を図っている。

NTC 競技別競技拠点とはスポーツ振興基本計画に基づき、トップレベル競技者の国際競争力を高める為に各競技の強化拠点として日本各地の専用施設を指定施設としたものであり、NTC 競技別強化拠点では該当する競技の競技者の長期的な強化活動、ジュニア競技者の育成などに活用される施設を指すものである。

### 5. 質疑応答

Q：富士山周辺には箱根などの観光スポットがある。地域間の対策は？

A：箱根を含む隣接した市とは争うのではなく、共存していきたい。

Q：観光とスポーツをどうやって結ぶのか。

A：インターネットの観光情報やパンフレットなどで情報を公開していきたい。

Q：インバウトなどの対策は。

A：民間団体「時之栖（ときのすみか）と共に日々研究している。過去には日韓ワールドカップなどの合宿施設などの指定も受けた経験がある。

## 6. 所感

御殿場市は、サッカーなどのスポーツが盛んであり、富士山を中心とする観光やメロンの産地としても有名である。スポーツツーリズムにととしては、国内有数の先進地ということができる。松阪市でも2020年度にフルマラソンを県内で初めて行うことがほぼ決定である。この機会を絶好の機会と捉え、スポーツと観光の融合を目指していきたい。

その中で観光とスポーツをどう結びつけるのが課題である。その答えのひとつとして、御殿場市のスポーツツーリズム専用のインターネットサイトがある。競技や観光を特集するだけでなく、地域の間しか知らないようなロケーションから撮影を行っており、プロカメラマンの撮影により、観光地の魅力を引き出している特徴である。

フルマラソンの競技だけで終わることなく、観光との融合の実現が不可欠であり、また単年の事業ではなく継続的にフルマラソンとして続くことを願うものである。今回の視察から得られた情報を、個々の競技のレベルアップの場の提供や、広報活動など先進地の良い事例として松阪のフルマラソン事業に活かしていける提案をして行きたい。これを見た人は同時にスポーツの体験をしてみたいと思うように高度な技術が盛りこまれており、大いに参考にするべきであろう。



御殿場市役所

## II. 静岡県袋井市 公民館活動としての日本語サロン（多文化共生をめざした国際交流事業）

日時： 2月5日（火）13:30~15:00  
場所： 袋井市立浅羽南公民館  
対応： 袋井議会事務局次長兼総務係長 金原佳紀様  
浅羽南コミュニティセンター館長 松下雅由様  
浅羽南自治会連合会会長 近藤五郎様  
浅羽南公民館館長 石垣英夫様  
日本語サロンボランティアの皆さま（お二人）

### 1. 袋井市の概要

面積 108.33 平方キロメートル（松阪市 624 平方キロメートル）  
人口 8 万 7938 人（松阪市 16 万 3863 人）  
人口増加率 1.1%（県内第 1 位）  
出生率 9.7 人（1000 人あたり）（県内第 1 位）  
高齢者人口（65 歳以上）22.4%

袋井市は、人口増加率が高く、生産年齢人口の割合が高い、活力ある都市である。また、全国の中でも日照時間が長い地域であり、平均気温が 16~17 度と 1 年を通じて快適な環境である。

平成 17 年 4 月 1 日に 1 市 1 町が合併し、現在の市域となった。南側は遠州灘に面しており、津波リスクが高いことから、最近では命山や避難タワーの建設が進んでいる。

産業的には、第 2 次産業の構成比が県全体の平均より高く、相対的にもものづくりの盛んな地域と言える。それによって在住外国人の数も増加の一途で、3958 人と人口の 4.5%を占める。特に訪問した浅羽南地区は、地区住民の 5.6%を外国人が占めている。

特産品としては、最高級のマスクメロンであるクラウンメロンや緑茶が有名である。

### 2. 浅羽南日本語サロンのデータ

#### (1)日本語サロンに登録した外国人（平成 20 年開設～平成 30 年 9 月延べ人数）

ベトナム 36 人、ブラジル 27 人、中国 18 人、フィリピン 17 人、  
ペルー 5 人、ネパール 4 人、インド 3 人、ミャンマー 2 人、インドネシア 2 人、  
スリランカ 1 人

#### (2)現在受講中の外国人

ベトナム 8 人、フィリピン 2 人、ブラジル 2 人、中国 1 人、インド 1 人、  
インドネシア 1 人

### 3. 日本語サロン設置の目的

日本語サロンは多文化共生をめざした国際交流事業の一つで、地域づくりの一環として、外国人居住者が多いこの地区で日本語が母国語でない人たちの日本語力の向上を目的とする。また、それによって、地域に外国人が増加しても日本人居住者とのコミュニケーションが円滑にできる地域をめざす。

### 4. 現在の活動状況

活動日は原則週1回で90分、マンツーマン方式で行う。カリキュラムは、ボランティアのサポーターが学習者の目的を聞き、独自に作成・準備している。教材はサポーターに任せているが、テキストはセンターが参考教材を購入して（現在約100冊）、コピーをするなどをして利用している。受講者の会費は無料で、サポーターも無報酬。完全なボランティア活動としている。

### 5. 課題点

サポーターの確保が困難で、現在は12人の受講生に対して6人しかいない。よってマンツーマン方式が取れず、力量の違う生徒2人ずつを担当しており、教えるのが難しい。また、サポーター同士の連携や研修の実施も課題である。同じ時間帯に授業をしているので、情報交換や研修の時間がほとんど取れない。

また、学習者サイドでは、欠席する時に連絡をしないなど文化的な違いよると考えられる問題が時折発生し、会費を徴収した方が欠席しないのでは、という意見もある。学び方の指導も必要であると考え。さらに、帰宅すると日本語を使う環境になく、進歩が滞っている学習者もある。

地域づくりの中では、防火訓練にどのようにして外国人にも参加してもらうか、ゴミ出しの仕方をどのように教えるのかなど、教室とは異なる実生活における課題に直面している。

### 6. 質疑応答

Q：日本人サポーターは、どのような人がなっているのか。

A：地域在住の日本人で、外国語学習者が多い。

Q：サポーターはどのようにして募集しているのか。

A：コミセン便りに掲載することや、事務局からの声かけによる。

Q：外国人の募集はどうしているのか。

A：口コミが多いが、ハローワークやチラシ、市役所での紹介などによる。

Q：外国人は地域在住者に限るのか。

A：近隣地域在住者も参加している。

## 7. 所感

「ものづくり」の盛んなまちであるため、在住外国人の割合が全国平均より高く、その中でも特に浅羽南地区は在住外国人が多い地域である。一方、太平洋に面しており津波の到達予想時間が短いため、防災の意識が高い地域でもある。そこで、外国人も含めた地域コミュニティづくりや地域防災の観点から、公民館が音頭をとって日本語サロンを始めた背景があるものと思われる。ここまで松阪市に危機感があるだろうか。

なお、サポーターの方達の体験を中心とした話を聞いて、サポーターは学習者と家族のように接しているのが理解できた。帰国するなどして「卒業」して以降も、ネットやSNSなどを利用して学習指導や日本語で悩みに寄り添う交流を続けているというのは、単に語学学習を超えた人間同士の絆づくりが盛んな地域と言えるのではないかと思う。

松阪市でも、日本語教室の必要性が年々高まっている状況であるが、機械的に言葉だけを教えるのではなく、何のために日本語学習が必要であるのか目的をはっきりさせて、多文化共生社会の実現を目指すべきであろう。市は支援するべきであると思われるが、松阪市でも、率先して地域でこのような前例が生まれてほしいものである。



袋井市立浅羽南公民館